

2026年6月3日

報道関係各位

ブルーイノベーション株式会社  
Aeroprobing Inc.

日台連携による産業用ドローンのアジア展開を本格始動  
～ブルーイノベーションブランドの点検・農業向け2ソリューションを  
「Japan Drone 2026」で披露～

ブルーイノベーション株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:熊田 貴之、以下 ブルーイノベーション)と、台湾のドローンメーカーAeroprobing Inc.(本社:台湾・新北市、CEO:Lance Kao、以下、Aeroprobing 社)は、両社協業により展開する“ブルーイノベーションブランド”のドローンソリューションを、2026年6月3日より開催の「[Japan Drone / 次世代エアモビリティ EXPO 2026](#)」にて初披露します。

今回展示するのは、屋外施設の点検・調査業務向けソリューション「AS1」と、農業分野における省人化・効率化を支援するソリューション「AP-Heli」の2ソリューションです。いずれも Aeroprobing 社ブース(小間番号 AH-13)にて展示を行います。

今回の取り組みは、単なる機体販売ではなく、Aeroprobing 社の機体・航空電子制御技術と、ブルーイノベーションの Blue Earth Platform<sup>®</sup>(BEP)<sup>\*</sup>による運航管理・データ連携・社会実装ノウハウを組み合わせ、用途別ソリューションとして展開を計画しています。

両社は、用途や地域特性に応じた産業用ドローンソリューションの展開を推進してまいります。



屋外点検・調査業務向けソリューション「AS1」(左)と、農業用途向けソリューション「AP-Heli」(右)

## ■両社協業の背景

ブルーイノベーションと Aeroprobing 社は、2019年より技術協力を開始し、2025年7月には産業用ドローン分野における協業拡大に向けた MOU を締結しました。さらに2025年12月に

は、ブルーイノベーションブランドによる機体展開に向けたブランドライセンス契約を締結しています。

台湾は、航空電子工学や電子制御分野において高い技術力を有しており、日本企業との産業的補完性も高い地域です。

Aeroprobing 社は、大型農業ドローンや産業用途向け機体、航空電子制御技術に強みを持ち、ブルーイノベーションは BEP を活用した統合運航管理や社会実装ノウハウを有しています。

両社は、それぞれの強みを組み合わせることで、日本およびアジア市場における産業用ドローンソリューションの展開を加速してまいります。

また、“ブルーイノベーションブランド”として展開することで、機体単体の提供にとどまらず、BEP による運航管理、用途別ソリューション設計、導入支援、保守・運用ノウハウまでを含めた統合型サービスとして市場投入を進めてまいります。

## ■展示機体

### ① 屋外点検・調査業務向けソリューション「AS1」

インフラ点検や設備保守など、屋外施設における点検・調査業務の効率化を支援するソリューションです。機体には EO/IR カメラ、3 軸ジンバルを搭載し、最大 40 分の飛行が可能です。

BEP と連携した運航管理・データ活用を通じ、点検業務の効率化や安全性向上を支援します。

### ② 農薬散布などを想定した農業用途向けソリューション「AP-Heli」

農業分野における省人化・効率化ニーズに対応するソリューションです。AP-Heli は、高ペイロード性能を活かし、効率的な運用を支援します。

また、BEP を活用した運航管理・データ連携を組み合わせることで、農業分野における効率的なドローン活用を推進します。

※詳細仕様は別添資料をご参照ください。

## ■今後の展開

両社は、2026 年内に台湾市場での展開を開始し、その後 2027 年にはインドネシアをはじめとする ASEAN 市場への展開を予定しています。

日本国内では、老朽化インフラ点検、防災・危機管理分野におけるドローン活用ニーズが高まる一方で、アジア市場では農業分野におけるドローン活用ニーズが急速に高まっています。

特にインドネシアなど ASEAN 地域では、農薬散布や農地管理の省人化需要が高く、農業用途向けドローン市場の成長が期待されています。

Aeroprobing 社が有する大型農業ドローンおよび航空電子制御技術と、ブルーイノベーションの BEP を活用した運航管理・データ連携技術を組み合わせることで、地域ごとの市場ニーズに応じた産業用ドローンソリューションの社会実装を推進してまいります。

また、BEP を活用した統合運航管理やデータ連携を通じ、継続的な運用サービス提供を含めた次世代ドローンプラットフォームの構築を進めてまいります。

今回の展示は、両社協業が「機体連携」から「社会実装段階」へ移行したことを示す取り組みとなります。

## ■代表コメント

ブルーイノベーション株式会社 代表取締役社長 熊田 貴之

今回の取り組みは、単に機体に当社ブランドを付与して販売するものではありません。

Aeroprobing 社の機体開発力と、当社が BEP を通じて培ってきた運航管理・データ連携・社会実装ノウハウを掛け合わせ、点検・農業・インフラ・災害対応といった社会課題の解決に資する産業用ドローンソリューションとして展開を目指しています。

日本とアジアでは、ドローンに求められる用途や市場ニーズが異なります。当社は、日本では点検・防災分野を中心に、アジアでは農業分野を含めた市場ニーズに対応しながら、BEP を軸とした産業用ドローンプラットフォームの展開を進めてまいります。

Aeroprobing Inc. CEO Lance Kao

ブルーイノベーションとの協業により、日本およびアジア市場に向けた産業用ドローンソリューション展開を進められることを大変嬉しく思います。

当社が強みとする航空電子制御技術や大型農業ドローン技術と、ブルーイノベーションの社会実装ノウハウを組み合わせることで、市場ニーズに応じたソリューション提供を推進してまいります。

\*\*\*

## ■用語説明

### ※ Blue Earth Platform®(BEP)

ミッションをベースに複数のドローンやロボット、各種デバイスを遠隔・目視外で自動制御・連携させることができる、ブルーイノベーション独自のデバイス統合プラットフォームです。複数のドローンやロボットを BEP で統合管理し、さらに各種OSやシステムと連携させることで、単体では成し得なかった広域での任意・複数のミッションを同時に遂行します。



<https://www.blue-i.co.jp/technology/bep/>

## ■会社概要

ブルーイノベーション株式会社(東京都文京区 | 東証 5597)

1999年6月設立。独自の統合プラットフォーム「Blue Earth Platform®(BEP)」を基盤に、ドローン・ロボットを活用した点検、防災、教育、物流の分野でソリューションを開発・提供しています。老朽化インフラの維持管理や災害対応、人手不足への対応など、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいます。

<https://www.blue-i.co.jp/>

### Aeroprobing Inc. (台湾・新北市)

Aeroprobing 社は、独自の高度な航空電子工学技術に注力し開発を行う企業です。ドローンシステム向けの電子制御装置を自社で開発しており、地上局 AI 統合システムをはじめとする先進的なソリュ

ーションを提供しています。こうした技術と、成熟市場の周辺部品を組み合わせることで、台湾の産業界、政府機関、学術機関に向けて多様な製品・サービスを展開しています。さらに、日本、インドネシア、タイには海外販売拠点を設け、グローバルな事業展開も進めています。

<https://aeroprobing.com/>

本リリースに関する問い合わせ先

ブルーイノベーション株式会社 経営戦略部 広報・IR チーム  
TEL:03-6801-8781 | E-Mail:[press@blue-i.co.jp](mailto:press@blue-i.co.jp)

## 【別添資料】 展示ソリューション詳細

### ①点検・調査用途向けソリューション「AS1」

#### ■ソリューション概要

AS1 は、インフラ点検や設備保守など、屋外施設における点検・調査業務の効率化を支援するソリューションです。

EO/IR カメラや 3 軸ジンバルを搭載し、BEP と連携した運航管理・データ活用を通じて、点検業務の効率化や安全性向上を支援します。

#### ■主な仕様

項目	仕様
機体名	AS1
用途	点検・調査用途
ホイールベース	1,200mm
プロペラサイズ	21 インチ
搭載機器	EO/IR カメラ、3 軸ジンバル
最大飛行時間	40 分

#### ■想定活用シーン

インフラ設備点検、屋外施設保守、災害時調査、広域監視、危険箇所確認など

### ②農業用途向けソリューション「AP-Heli」

#### ■ソリューション概要

AP-Heli は、農業分野における散布業務の省人化・効率化を支援するソリューションです。

高ペイロード性能と運航安定性を備え、BEP と連携した運航管理・データ活用を通じて、効率的な農業ドローン運用を支援します。

#### ■主な仕様

項目	仕様
機体名	AP-Heli
用途	農業用途
機体タイプ	無人ヘリコプター
最大離陸重量	30kg
機体空重	8kg
最大ペイロード	16kg
最大飛行時間	25 分

#### ■想定活用シーン

農薬散布、農地管理、広域農地運用、農業分野の省人化支援、効率的な農業オペレーション